

長谷宗悦

存在と経験について

2023年

地球、自然、そして人も含め、森羅万象は奇跡の存在である。
一つとして同じものではなく、それぞれが固有の存在として在る。
そして互いの関係のなかで共生・共存し、歴史の一員として場を持っている。

自己以外の存在を意識することは、その人自身が自らを客観視する作業でもある。

こうした「当たり前」とされることに思いを巡らせながら、私は幼い息子や素材と向き合う日々を過ごしている。

想像し、共感することは、人が持つ素晴らしい能力である。

しかし、実際に経験してみると、そこから生まれる認識や理解は異なることが多いのではないだろうか。

経験とは、身体――すなわち五感を伴った「経験」なのだ。

私自身も子どもの誕生に立ち会い、多くの親たちと同様に、奇跡だ、有難い、と感じた。

私のすべてが、直観的にそう受け取ったのだろう。

出逢いは不可思議であり、縁もまた不可思議である。

良いも悪いもなく、ただ感謝がある。